

『ピーターパンの島』

星新一ショートショートセレクション』

星 新一／著 理論社(2003年)

「ショートショートといえば星新一」というぐらい、日本のショートショートの第一人者です。SFあり、ブラックユーモアありと数多くの作品を書かれています。

僕は有名になりたいと常々思っていた。そんなある日、知り合いの学者が「当人の性格にあった長所をひきだし、作用が六日間持続する」という薬を発した。これを飲めば僕は有名になれるだろう。しかし、薬を飲んだ後の記憶がない。街に出れば僕は確かに有名になっているようだ。僕はこういったことで有名になっているのだろう。(「有名」より)



『ショート・トリップ』

ふしぎな旅をめぐる28の物語』

森 絵都／作 集英社(2011年)

旅に関するふしぎなおはなしが28話。あんな国があるのか、こんな冒険してみたい！！みんなが気に入る旅が絶対にあるはず。さあ、旅にでかけよう。

平和きわまりないアッチノ村で約二百年ぶりの盗難事件がおこった。容疑者はすぐに思いついたのだが…。これは時刻表トリックなのか？(「ミステリー・トレイン」より)

『魔女のパン』

オー・ヘンリー ショートストーリーセレクション』

オー・ヘンリー／著 理論社(2007年)

ちょっと長めのショートショート。オー・ヘンリーは生涯272編の短編集を残しました。

ミス・マーサ・ミーチャムのパン屋は街角にあった。ミス・マーサは思いやりのある心を持っていた。マーサは古パンしか買わない絵描きさんが気になって仕方ありません。ちょっとでも栄養のあるものを食べてもらいたいとある日、マーサは古パンにこっそりバターをはさみこみました。(「魔女のパン」より)

『復讐専用ダイヤル』

赤川次郎ショートショートシリーズ』

赤川 次郎／著 理論社(2009年)

僕は筆無精だ。大事な彼女への手紙も、友人が紹介してくれた人に代筆を依頼した。最初は僕の言うとおりに書いてくれていた手紙が段々と僕の思惑からはずれてきて。(「代筆」より)

予想もしなかった結末が目白押しのショートショート集です。

ほっこりした結末やブラックユーモアなど読み応え十分です。



ショートショートとは？

短編小説よりも短いおはなしをショートショートとよんでいます。長さが厳密に決まっているわけではありません。

舞台設定や登場人物の容姿、心情など語りつくそうとすればするほど、物語が長くなってしまふのは仕方がないこと。いかに短いおはなしの中で舞台設定、登場人物を描けるか。また、読者をひきつけ、驚きの結末にもっていくのか、作者が力量をみせてくれるものです。

短いおはなしなので、通学の電車の中や、朝読の時間、また休み時間などに最適です。

本を読むのが苦手という人もぜひ手にとってみてください。あっといふまに読み終わるので、苦手意識がなくなるかもしれません。

ジャンルは多彩でSFあり、ユーモアあり、ミステリーありです。

何を讀んだらいいのかわからないという人はショートショートを讀んで、自分のお気に入りのジャンルを探すという手もあります。

ショートショートから物語の世界を広げてみませんか？